

KRC WEB REPORT

徒然想

珈琲好きの方には当然の話で恐縮なのですが、焙煎についての「豆」知識を少しご紹介したいと思います。焙煎とは、まさに生の「豆」を煎る事。その煎り方で、浅煎り、中煎り、深煎りなどと各段階にわかれます。厳密には8段階程度になるようですが、一般的にはこの3段階が知られていると思います。珈琲店を営んでいる友人曰く、「朝(あさ)目覚めの悪い君におすすめなのは、その名も浅(あさ)煎り」なのですが、これは豆本来の味と成分が活かされてカフェインも多く含まれるからだそうです。ちなみに、慌ただしく疲れのたまりやすい年末の気分転換には、香りに癒し効果のある深煎りが良いそうです。ぜひ珈琲など飲みながら、今年最後のレポートをご覧ください。幸いです。

TECHNICAL TOPICS 今月の技術情報

2012年10月8日～11日にかけてベトナムのハノイ市で開催された4th ICEC 2012 (International Conference on Estuaries and Coasts 2012)に、当社の池田優雄(大阪支社所属)はじめ数名の職員が参加しました。

「ICEC」は、河口および海岸の環境保護に関する新しい技術などを情報交換し、河口および海岸に関する先端技術を促進させる目的で3年ごとに開催されています。私たちの発表論文は、広島大学大学院工学研究科と共同研究を行っている河川音響トモグラフィ(FATS)に関するもので、当社から1編、また広島大学から2編の計3編の発表を行いました。

今号では、当社の発表論文「CONTINUOUS MEASUREMENT OF FLUSHING DISCHARGE FROM RESERVOIRS」についてご紹介します。



学会会場の前にて



発表の様子

その概要としては、次の通りです。

河川流量は河川・水資源管理や水循環を考える上で極めて重要な水文学量であることから、安全かつ確実な河川流量観測法の確立が喫緊の課題となっています。これまで様々な河川流量の計測法が行われてきましたが、多くの課題を抱えているのが現状であり、その課題を克服するために河川音響トモグラフィ(FATS)が開発されました。私たちは、その検証実験を行ったものについて発表しました。

河川音響トモグラフィ(FATS)の主な特徴は、校正係数を必要とせず瞬時に断面平均流速を求める事ができることです。また、使

用される超音波に擬似ランダム信号:M 系列との相関処理を施すことにより、洪水時などの高濁度下でも、流量観測を行うことが可能となりました。このような特徴を持つ FATS を用いれば、既往の流量観測法では困難であった条件下でも、長期的かつ連続的に観測することができます。また感潮域河川でも流量モニタリングの実用化が期待できるものとなりました。会場では多くの質問を受け、海外においても共通の課題を抱えている事を実感しました。当社では、今後さまざまな現場において実践していきたいと思っています。

ICEC 2012 公式サイト:<http://iccc2012.wru.edu.vn/>

河川音響トモグラフィ(FATS)について:http://www.krcnet.co.jp/tech/tech_fats01.html

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせ先: krc@krcnet.co.jp HP: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm>